

季刊

博物館だより

FUKUSHIMA MUSEUM
QUARTERLY

URL <http://www.general-museum.fks.ed.jp>

108

2013年NHK大河ドラマ特別展

八重桜

福島県立博物館



二〇二三年NHK大河ドラマ特別展

「八重の桜」

会期..平成二五年五月一七日(金)～七月三日(水)
会場..福島県立博物館 企画展示室、部門展示室
主催..福島県立博物館、NHK福島放送局、NHKプラネット東北
協賛..日本写真印刷、ハウス食品、三井住友海上
協力..同志社大学



葵紋散牡丹蝶蒔絵重硯箱
福島県立博物館蔵



孝明天皇御宸翰 個人蔵



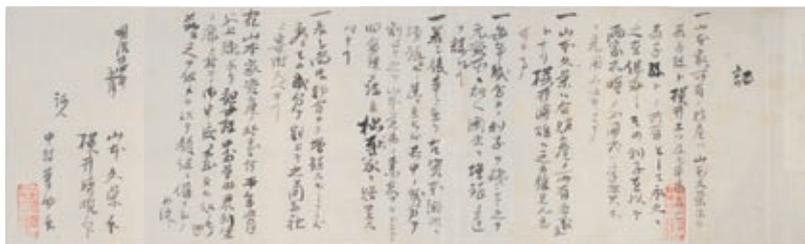
追鳥図屏風 個人蔵 (福島県立博物館寄託)



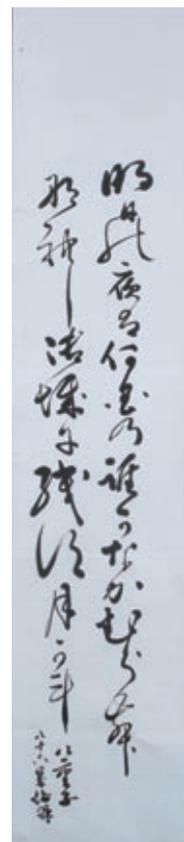
新島襄と八重
同志社大学同志社史資料センター蔵

新島八重は、弘化二年(一八四五)一月三日、会津藩の砲術師範を務める山本権八・佐久夫妻の子として生まれました。
慶応四年(一八六八)に起こった戊辰戦争の際には、男装して元込七連発のスペンサー銃を持ち、若松城(鶴ヶ城)に登城します。若松城での籠城戦は約一ヶ月間に及びましたが、八重は銃を手に男性たちとともに新政府軍と戦いました。
会津藩の降伏から約三年が経った明治四年(一八七一)一月、兄の山本覚馬を頼って母・佐久、姪・峯(みね)とともに京都へと移り、京都最初の女学校である「女紅場」の権舎長と機織教導試験と務めるようになります。その傍らで、英語や聖書を学びました。
明治八年(一八七五)には、アメリカ帰りで同志社の創立者となる新島襄と出会い、翌年一月に結婚します。気高く毅然と立ち振る舞う八重の生き方を、襄は「ハンサム」と評しました。
襄が亡くなった後の八重は社会奉仕へと取り組み、日清、日露戦争の際には故郷の魂を胸に篤志看護婦として果敢に行動していきます。また裏千家に入門し、茶道をこよなく愛しました。
本展では、NHK大河ドラマ「八重の桜」と連動しながら、新島八重の生涯を「プロローグ」「会津の教え」「幕末の京都」「会津籠城」「古都復興―覚馬と襄―」「ハンサムウーマンへ」「エピローグ」の構成で紹介していきます。新島八重ゆかりの品々や同時代の資料約二〇〇点に加え、会場内

(表紙) 新島旧邸応接間の復元(東京展) ※福島展は形状が変わる場合があります。



山本覚馬遺言状草稿 同志社大学同志社社史資料センター蔵



新島八重筆和歌条幅
「明日の夜は」
福島県立葵高等学校蔵



竹茶灼 銘 菘 同志社大学茶道部蔵



日本赤十字社篤志看護婦人会正装用帽子
同志社大学同志社社史資料センター蔵

- おもな展示資料
- ・保科正之像（宋帯）〈眞重文〉 土津神社蔵（福島県立博物館寄託）
 - ・家訓（題字…松平容保・本文…山川浩） 個人蔵（福島県立博物館寄託）
 - ・追鳥狩図屏風 個人蔵（福島県立博物館寄託）
 - ・七卿落図屏風 京都府立総合資料館蔵（京都文化博物館管理）
 - ・葵紋散牡丹蝶時絵重硯箱 福島県立博物館蔵
 - ・孝明天皇御尊影 泉涌寺蔵
 - ・孝明天皇御宸翰 個人蔵
 - ・孝明天皇御製 個人蔵
 - ・緋色地唐草葵紋錦袋 個人蔵
 - ・蛤御門の変図屏風 会津若松市蔵
 - ・大政奉還 下図 明治神宮蔵
 - ・奥羽越列藩同盟旗 宮坂考古館蔵
 - ・新島八重筆和歌条幅「明日の夜は」 福島県立葵高等学校蔵
 - ・泣血甕 会津若松市蔵／会津武家屋敷蔵
 - ・斗南県川崎尚之助ヨリフライキストンニ係ル広東米差縛一件書類 鶴岡市郷土資料館蔵
 - ・政典〈重文〉 京都府立総合資料館蔵
 - ・山本覚馬遺言状草稿 同志社大学同志社社史資料センター蔵
 - ・新島襄所用 コート、ズボン、ネクタイ 同志社大学同志社社史資料センター蔵
 - ・新島八重宛書簡（新島襄筆） 同志社大学同志社社史資料センター蔵
 - ・日本赤十字社篤志看護婦人会正装用帽子 同志社大学同志社社史資料センター蔵
 - ・勲六等宝冠章 同志社大学同志社社史資料センター蔵
 - ・竹茶灼 銘 菘 同志社大学同志社社史資料センター蔵
 - 同志社大学茶道部蔵
- （歴史分野…古山智行）
- には八重と襄が暮らした新島旧邸の応接間を実際に使用していた家具を用いて復元します。江戸・明治・大正・昭和という四つの時代を力強く生きた新島八重と戊辰戦争の敗戦から立ち上がった人々の姿を通して、復興へのメッセージを伝える展覧会です。

NHK大河ドラマ特別展

「八重の桜」プレイイベント

パネル展

「輝ける会津女性 新島八重を知ろう」

○歴史講演会1

「時代を駆ける 新島八重の生涯」

講師：会津歴史考房主宰 野口 信一氏

日時：平成二五年一月二七日（日）

一三時三〇分～一五時

場所：福島県立博物館 講堂

野口氏は、NHK大河ドラマ「八重の桜」の資料提供者として、ドラマに関する話題を紹介しながら、大変興味深いお話をなさいました。

八重のふるさと会津について概説し、八重の幼年代の山本家の家族について話されました。また八重の幼馴染みの話や兄・覚馬と日新館についても話されました。さらに最初の夫となる川崎尚之助について、最近、野口氏が明らかにした資料を紹介しました。会津藩士の身分制度についても、紐制や襟制について、解説なさいました。



そして、戊辰戦争がはじまって、鶴ヶ城に籠城して戦う八重の姿を資料に即して説明しました。八重の出陣の様子、砲手八重の活躍、降伏開城時のエピソードなどが紹介されました。さらに敗戦後の八重の家族の米沢への出稼ぎの説明をされました。

○歴史講演会2

第一部

基調講演「資料にみる八重と襄の夫婦像」

講師：同志社大学同志社社史資料センター社史

資料調査員 小枝 弘和氏

第二部

対 談「会津と同志社からみた八重像」

小枝 弘和氏

福島県立博物館学芸員 古山 智行

進行：福島県立博物館学芸員 佐藤 洋一

日時：平成二五年二月九日（土）

第一部 一三時三〇分～一四時三〇分

第二部 一四時四五分～一五時三〇分

場所：福島県立博物館 講堂

第一部で小枝氏は、京都時代の八重について概説しました。八重たちは、京都で兄・覚馬と再会しました。覚馬の活躍の様子が話されました。また、襄と八重との出会いの話がなされました。また、襄の結婚観と八重の話や、襄の手紙からみた夫婦仲の良さについて紹介されました。特に襄はよく八重に手紙を送ったことが話されました。手紙には必ず家に残る八重を気遣う言葉が入っていたそうです。そして、長文の手紙が紹介されました。



第二部では、第一部の小枝氏の話を受けて自由に話を展開しました。新島襄と福島県との関わりについて、古山が襄たちが航海中にいわきに寄港し、平城下に数日間滞在したことを紹介しました。

小枝氏は、明治一五年（一八八二）に襄と八重夫妻は、徳富猪一郎らと旅行に出かけ、安中に滞在したり、若松に滞在しましたが、京都へ行ってから初めて帰郷で、八重の心境はどうだったかと推察しました。

小枝氏は、八重の所持した二二枚の会津若松に関する写真について、晩年、京都にいて懐かしく写真を見ていた八重の姿を想像させてくださいました。

進行が、今京都の同志社大学を訪ねると、キャンパスに国指定重要文化財の建造物が五棟もひしめいている姿は圧巻だという感想を述べました。そして、その淵源が、覚馬と襄、襄と八重夫婦の同志社英学校創立につながるといふことを再確認することができました。

（歴史担当：佐藤洋一）

新島襄と福島

古山 智行 歴史分野

明治四年（一八七二）一〇月、兄・山本覚馬を頼って京都へと移った八重は、明治八年（一八七五）に新島襄と出会い、翌年一月三日にキリスト教の結婚式を挙げています。

八重と襄が二人で最初に会津を訪れるのは、明治一五年（一八八二）のことです。覚馬の娘である峯（みね）とその夫・伊勢（横井）時雄とともに、日光から白河を通って七月二六日に会津へと入り、若松の七日町の清水屋平次方に宿泊しました。白河について、襄は徳富猪一郎（蘇峰）宛書簡の中で、「点灯之時ニ至リ白川ニ達ス此地維新之際東西両軍之大ニ激戦セシ所ナリ町之入口ニ東西軍戦死ノ士ノ墓アリ」と記してお

り、白河口の戦いの激戦地であった稲荷山の山裾を通ったことがうかがえます。現在も同地には、会津藩戦死者三〇四名が刻まれた「戦死墓」、「銷魂碑」、「長州大垣戦死六人之墓」などが残りま

す。そこからさかの



稲荷山古戦場 銷魂碑（左）・戦死墓（右） 白河市松本

ぼること一八年、幕末期の元治元年（一八六四）に、襄が現在の福島県いわき市を訪れていたことは意外と知られていません。それは、備中松山藩の快風丸に乗船し江戸から箱館に向かう途中でのことです。襄は、この旅のことを『函館紀行』としてまとめています。

三月二八日、快風丸は磐前郡中之作に停泊しました。船頭の佐吉が、この地で売り渡すものと以前に貸しておいた金があったため、六〇七日逗留することになり、襄も上陸し、仙台屋に宿泊します。翌二九日には乗船仲間とともに、磐城平の北西に位置する赤井嶽へと出かけました。現在も関ヶ井嶽薬師の名で親しまれていますが、襄も「名山を見物センと参りし」と記しています。しかし、途中で烈風雷雨に遭い、赤井嶽にはたどり着くことができず、磐城平まで引き返して十一屋清蔵方に一泊することになりました。

同宿で主人から聞いた話や襄自身が確かめたことは、「平城之略縁起（記）」として『函館紀行』の中に記されており、平城下や周辺地域における人々の暮らしや特産物など、当時のいわきの様子を知ることができます。次に挙げたのは、その一部です。

「安藤候此を領す、其レ故か候の高にして此城甚壯麗なり」「城之大手口の北ニ当リ一町ヨ之所に甚壯麗なる神社あり。是を飯之八幡宮と称す」「城下に妓楼もなく又怪き者も一切なし」「産物ハ石炭、染藍、岩城紙、且先条云ふ所の傘等なり」「海浜の者多くハ漁獵を以業と為す、鯛、王余魚、比目魚、魴鮒の類多し、且鯉杯時々沢山あれど当節ハ絶てなし」「海辺に比目魚、魴鮒等を乾す事甚し、是れ干物ニなし四方へ運する由」。

石炭や豊かな水産資源、干物の生産などは、近

現代の産業に通ずる、興味深い内容といえます。

四月七日に中之作を出港した快風丸は、金華山沖を通り、鉾ヶ崎港（岩手県宮古市）、下風呂（青森県下北郡風間浦村）を経由して、同月二一日、箱館港に到着しました。それから約二ヶ月後の六月四日の夜半、世界を自らの目で見るとため密出国を決意した襄はアメリカ商船に乗り込み、上海を経由してアメリカに渡るのでした。この密出国を手助けした沢辺琢磨は、箱館戦争の際には会津藩家老西郷頼母から息子・吉十郎を託され、また明治一〇〜二〇年代にかけて白河ハリストス正教会の司祭を務めた人物でもあります。

五月一七日に開幕する二〇一三年NHK大河ドラマ特別展「八重の桜」には、新島襄関連の資料も展示されますので、ぜひご覧ください。



新島 襄
(1866年3月撮影。現存する襄の最古の写真)
同志社大学同志社社史資料センター蔵

註
(1) 家臣一同が傘張りをして生計を立てていることを紹介する文章がある。

【参考文献】

新島襄全集編集委員会『新島襄全集』第一巻〜第十巻
同朋舎出版 一九八三〜一九九六年

籠城戦の八重

Q…幕末の会津藩に生まれ育った八重は、戊辰戦争の時に鶴ヶ城に入り、約一ヶ月間籠城し、戦鬪を繰り広げたようですが、この八重の籠城戦の様子が詳しくわかる資料には、どのようなものがあるのでしょうか。

A…八重の籠城戦については、八重自身が三種類の回顧談を残しています。

①新島八重子「男装して会津城に入りたる当時の苦心」(『婦人世界』第四卷第二三号、一九〇九年)

②平石辨蔵著「新島八重子談」(『会津戊辰戦争 増補白虎隊娘子軍高齢者之健闘』所収、一九二八年、

改訂増補第四版)
③新島八重子述「新島八重子刀自懐顧談」(一九三二年)

これらは、八重自身が述べた籠城戦の体験談です。このような回顧談を軸に関係者の目撃談などの傍証が添えられて、籠城戦で活躍する八重像が形成されてきたのです。

Q…籠城するときの様子はどうだったのでしょうか。

A…慶応四年(一八六八)八月二三日に登城を告げる早鐘が打ち鳴らされる中、八重は第三郎の形見である男物の着物と袴を着用し、麻の草履を履き(「足袋

裸足にて」ともあります)、形見の両刀を差し、かつ、懐剣は自分のものを差して、元込式七連発のスペンサー銃を肩に担いで鶴ヶ城へ入城しています。この銃の弾丸は百発持参していました。八重は、母佐久、兄嫁うら、姪みねと一緒にした。

のちに、この時の気持ち②では「一は主君のため、一は弟のため、命のかぎり戦ふ決心で、城に入りまして、これら三つの回顧談および関係者の目撃談によって、多くの人々が八重の籠城戦を活写したり、生き方を語る材料としてきたのです。

佐藤 洋一



八重は①で「入城した女の役目は、兵糧を炊くこと、弾丸を作ること、負傷者の看護をすることの三つでございました」と述べています。八重の場合は、照姫の御側役心得を仰せつけられたり、その他に戦鬪にも参加していました。

Q…八重の戦鬪とは、どのようなものですか。

A…夜の戦鬪に参加したり、鉄砲で狙撃したりしていました。

その他「大砲の手伝い」をやっていました。ただし、八重の回顧談の中で八重自身が積極的に触れていない籠城戦中の働きです。

②の中で、八重は中野こう子(孝子。竹子と優子の母)との会話を回顧しています。中野に「何故娘に軍に加はりませんでした」と問われて、八重は「妾は鉄砲にて戦する考へで居りました」と答えましたが、「實際西出丸の上から日々狙撃をして居ました。又大砲の手伝いもして居ました」と述べています。目下の所「大砲の手伝い」が籠城中の仕事の一つであったことを八重自身が明言しているのは、この回顧談だけであり、つまり、八重は、中野から籠城中の任務を問われたので、「(鉄砲による)日々狙撃」と「大砲の手伝い」について回答したのでした。

それは、何を意味しているのでしょうか。夫川崎尚之助は城内で大砲隊を指揮して活躍していました。これは藩士としての軍事行動です。しかし、それに付加するように川崎尚之助と八重との協同による大砲操作の逸話が人口に膾炙しています。すなわち、「新政府軍の小田山からの砲撃に対して、夫川崎尚之助とともに夫人八重は大砲を操作して応戦し、大きな成果を上げて周囲から喝采された」という骨子の武勇伝です。しかし、これは、八重自身が回顧談として語ったものではなく、多くの人々の目撃談として語られました。



テーマ展「絵図でタイムトリップ！幕末の若松城下」

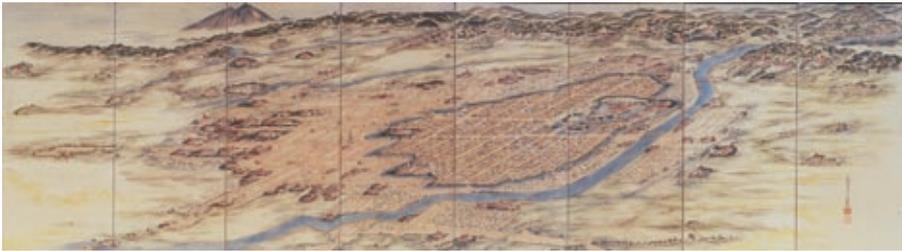
会 期：平成25年4月13日(土)～5月6日(月祝)

会 場：収蔵資料展示室

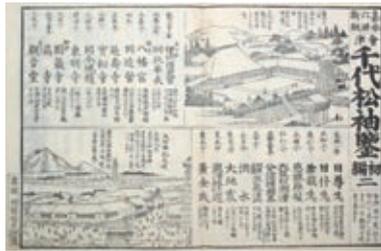
観覧料：大人・大学生260円（常設展料金でご覧になれます）、高校生以下無料

概 要：会津藩23万石の城下町として栄えた若松の町。多くの人や物資が行き交い、にぎわいました。その幕末の英姿を、屏風や掛け軸などの絵画資料からご覧いただけます。また、幕末に活躍した若松の絵師大須賀清光は、城下を俯瞰的に描いた絵図のほか、会津を紹介する様々な摺り物を残しました。その中には名所・名産・諸芸能など会津のことが何でも分かる番付や、ユーモアあふれる面白番付もあります。今回はこうした摺り物類も一挙公開。幕末の会津を旅した気分になれるかもしれません。

(歴史担当 阿部綾子)



若松城下絵図屏風（当館蔵）



会津千代松袖鑑初編二（当館蔵）

平成二五年度 夏の企画展

震災復興・国立科学博物館コラボミュージアム in 会津若松
「対決！恐竜展」
ティラノサウルスとトリケラトプス

夏の企画展は、国立科学博物館および全国科学博物館振興財団との共催による「震災復興・国立科学博物館コラボミュージアム」として開催します。

この展示では、ふだん地方都市ではあまり目にするのできない恐竜の全身骨格復元を複数展示して、恐竜に興味を持つ多くの方々に、その迫力ある姿をご覧いただこうと思います。

コラボミュージアムの巡回資料であるアロサウルスや、科博の「恐竜博二〇一」で反響を呼んだ、クシャガんだ姿勢のティラノサウルス[®]の全身骨格の展示などを通して、最新の研究成果に基づく恐竜のすがたを御紹介したいと思います。合わせて、福島県から見つかった恐竜化石についても御紹介します。さらに、当館の収蔵資料を用いて、福島、日本、そして世界の中生代の生物について展示するコーナーを設けます。

夏休みの期間を中心に、皆さんに気軽に楽しんでいただける展示にしたいと思います。もちろん、「化石にさわってみよう」のコーナーも充実しますよ。



ティラノサウルス

■会期：平成二五年七月二七日～九月一六日〔四五日間〕

特別展

2013年NHK大河ドラマ特別展 「八重の桜」
会期 5月17日(金)～7月3日(水)

NHK大河ドラマ特別展 「八重の桜」の観覧料

観覧料	特別展当日券	特別展早売券
一般・大学生	1,000円(800円)	800円
高校生	無料	
小・中学生	無料	

1. 高校生以下の観覧料は、無料です。
2. 一般・大学生の観覧料は、1,000円です。20名以上の団体は800円です。
※平成25年4月2日(火)から5月16日(木)まで早売券を販売します。早売券は800円です。早売券は、当館受付カウンターのみ取り扱いです。
3. 特別展と常設展を同時に観覧する場合は、常設展観覧料を団体扱いとします。
※常設展観覧料は、一般・大学生が二六〇円(20名以上の団体は二〇〇円)です。高校生以下の常設展観覧料は無料です。

◎2013年大河ドラマ特別展「八重の桜」関連講演会

「描かれた幕末の会津藩―追鳥狩・蛤御門の変図を読み解く」
日時 5月29日(水) 14時～15時45分

会場 福島県立博物館 講堂

講師 茨城大学文学部教授 高橋 修さん

司会 学芸員 古山智行

「企画委員が語るNHK大河ドラマ特別展「八重の桜」1」
・基調講演 「昭和三年と会津」(30分)

講師 東京都江戸東京博物館学芸員 齋藤慎一さん

・シンポジウム

「NHK大河ドラマ特別展「八重の桜」の魅力」(60分)

パネリスト 齋藤慎一さん

学芸員 佐藤洋一

司会 学芸員 高橋 充

日時 6月12日(水) 14時～15時45分

会場 福島県立博物館 講堂

「企画委員が語るNHK大河ドラマ特別展「八重の桜」2」
・基調講演 「幕末京都の活力」(30分)

講師 京都府京都文化博物館学芸員 西山 剛さん

・シンポジウム

「幕末・明治の京都―寛馬と裏、新撰組」(60分)

パネリスト 同志社大学同志社社史資料センター
社史資料調査委員 小枝弘和さん

西山 剛さん

司会 学芸員 古山智行

日時 6月26日(水) 14時～15時45分

会場 福島県立博物館 講堂

テーマ展

「ふるさとの考古資料3 館蔵「9人のコレクション」展」
会期 平成24年6月5日(火)～平成25年5月12日(日)

「東神指の彼岸獅子」
会期 3月6日(水)～5月6日(月)

「絵図でタイムトリップ!幕末の若松城下」
会期 4月13日(土)～5月6日(月)

「ふるさとの考古資料4 『大熊町』遺跡探訪」
会期 6月18日(火)～平成26年5月11日(日)

ポイント展

「小さな雑祭」
会期 2月20日(水)～4月3日(水)

「青年貯蓄会の嶋台」
会期 4月4日(木)～5月1日(水)

「伝来資料にみる土津神社V.O.1」
会期 4月6日(土)～6月28日(金)

「近世に書かれた中世の城絵図」
会期 4月6日(土)～7月19日(金)

「伝統の継承―福島県立会津工業高校所蔵逸品ギャラリー」
会期 4月6日(土)～12月15日(日)

「八重の時代の会津人」
会期 4月6日(土)～12月27日(金)

「伝来資料にみる土津神社V.O.2」
会期 6月29日(土)～9月27日(金)

木曜の広場

「会津風土記・風俗帳の世界」1
日時 4月18日(木) 13時30分～15時

会場 福島県立博物館 講堂

講演・講座

講師 館長 赤坂憲雄 学芸員 佐々木長生

「会津風土記・風俗帳の世界」2
日時 5月9日(木) 13時30分～15時

会場 福島県立博物館 講堂

講師 館長 赤坂憲雄 学芸員 佐々木長生

「会津風土記・風俗帳の世界」3
日時 6月20日(木) 13時30分～15時

会場 福島県立博物館 講堂

講師 館長 赤坂憲雄 学芸員 佐々木長生

講演・講座

※保存科学講座

※福島県立博物館における収蔵資料の予防保存
―資料を取り巻く環境の調査と確認―
日時 4月20日(土) 13時30分～15時30分

会場 福島県立博物館 実習室、展示室など

講師 学芸員 杉崎佐保恵

〇実技講座

※「小旗を作ろう」
日時 5月5日(日) 13時30分～15時

会場 福島県立博物館 体験学習室

講師 伝統技術保持者 大野青華さん、大野久子さん

ミュージアムイベント

「玄如節と会津の民謡」
日時 6月22日(土) 13時30分～15時

会場 福島県立博物館 エントランスホール

出演 玄如節顕彰会のみなさま

実演

大堀相馬焼の絵付け
日時 6月23日(日) 13時30分～15時

会場 福島県立博物館 体験学習室

講師 大堀相馬焼窯元 休閑室 半谷みどりさん

後援事業

福島県青少年教化協議会講演会
日時 6月16日(日) 13時～16時

会場 福島県立博物館 講堂

講師 エッセイスト 大石邦子さん

大河ドラマ特別展
「八重の桜」プレイイベント

パネル展「輝ける会津女性 新島八重を知ろう」
会期 1月6日(日)～5月6日(月)

場所 福島県立博物館 企画展示室特設コーナー

※要申込の行事は基本的に開催日の1ヶ月前から募集を開始しますが、異なる場合もありますのでお問い合わせください。
*その他、行事等の詳細に関しては、月行事予定やホームページをご覧ください。

4月～6月の休館日
4月1日(月)・8日(月)・15日(月)・22日(月)
30日(火)
5月7日(火)・13日(月)
6月3日(月)・10日(月)